

## 高岡へのアクセス

### 名古屋から 約3時間

- ↑ 能越自動車道 (13.7km) **高岡I.C**
  - ↑ 小矢部・砺波JCT
  - ↑ 東海北陸自動車道 (48.1km)
  - ↑ 白川郷I.C (25km)
  - ↑ 飛騨清見I.C
  - ↑ 国道156号
  - ↑ 庄川I.C (18.8km)
  - ↑ 東海北陸自動車道 (102.9km)
  - ↑ 一宮JCT
  - ↑ 名神高速 (8.3km)
  - ↑ 小牧I.C
- 開通すると  
約20分  
短縮!!

### 大阪から 約4時間

- ↑ 能越自動車道 (13.7km) **高岡I.C**
- ↑ 小矢部・砺波JCT
- ↑ 北陸自動車道 (203.5km)
- ↑ 米原JCT
- ↑ 名神高速 (109.5km)
- ↑ 吹田I.C
- ↑ 能越自動車道 (13.7km) **高岡I.C**
- ↑ 小矢部・砺波JCT
- ↑ 北陸自動車道 (148.1km)
- ↑ 上越JCT
- ↑ 上信越自動車道 (205.6km)
- ↑ 藤岡JCT
- ↑ 関越自動車道 (78.6km)
- ↑ 練馬I.C

### 東京から 約5時間30分

- お問合せ■
- 高岡市商業観光課**  
TEL.0766-20-1301
- 高岡市文化財課**  
TEL.0766-20-1453
- 高岡市開町400年  
記念事業推進室**  
TEL.0766-20-1688
- 〒933-8601  
高岡市広小路7-50  
<http://www.city.takaoka.toyama.jp/>

高岡観光案内  
携帯サイト



高岡の観光情報  
を手軽に携帯!  
随時更新中です!

「世界文化遺産をめざす高岡市民の会」事務局  
高岡商工会議所内

〒933-8567 富山県高岡市丸の内1-40  
TEL.0766-23-5000 FAX.0766-22-6792  
HP <http://www.ccis-toyama.or.jp/takaoka/>

「世界文化遺産をめざす高岡市民の会」では、  
世界文化遺産登録の実現を目指しています。  
皆様のご協力をお願いします。

個人会員  
一口  
1,000円

企業・  
団体会員  
一口  
1万円



2009年  
高岡は開町400年を迎えます。

# 近世高岡の 文化遺産群

— 高岡の宝を  
世界の宝に —



高岡市

世界文化遺産をめざす高岡市民の会



利長くん

## 世界遺産暫定一覧表記載候補 「近世高岡の文化遺産群」を世界文化遺産に

高岡市では、「近世高岡の文化遺産群」として世界文化遺産登録を目指しています。

平成18年の文化庁への提案内容は高い評価を受けながらも「継続審議」となり、平成19年に構成資産を追加して再提出しました。

## 近世高岡の文化遺産群

高岡には、世界文化遺産登録候補にふさわしい歴史を物語る町並みや建造物群が良好に保存され、我が国における都市の成立と発展の過程を世界に立証する典型的な文化遺産群があります。そして文化遺産群を護り伝える心意気が、藩主から町民、そして市民へと脈々と受け継がれ、未来へと受け継いでいきます。

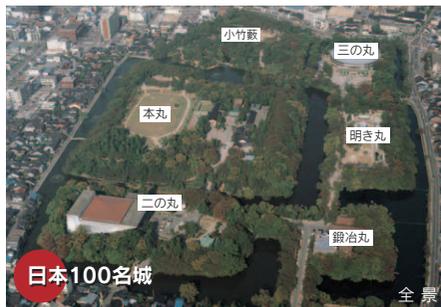
## 2009年は開町400年

高岡は、奈良時代、万葉の歌人大伴家持が国司として赴任し、多くの秀歌を詠んだ万葉の故地です。

慶長14年(1609)に加賀藩二代藩主前田利長公によって城下町として開かれ、元和元年(1615)の一国一城令によって廃城となった後も、三代藩主利常公の産業保護政策と高岡町人のたゆまぬ努力によって、高岡銅器や高岡漆器を始めとするものづくりのまち・商工業の町として繁栄し、平成21年(2009)には開町400年を迎えます。



## 高岡400年の歴史は 利長の夢からはじまった



日本100名城



甦る水100選



日本の歴史公園100選



桜名所100選



## 2 守山城跡

二上山に築かれた中世の山城で、この地域の拠点城郭でした。

利長公は天正13年(1585)から慶長2年(1597)まで在城し、利常公も幼少時をこの城で過ごしました。高岡城が築かれると

木舟町にならって守山城下から移住し、守山町をつくりました。

■ 二上山の山頂からは、射水平野一帯を見渡すことができます。利長公はこの時から高岡城の場所を定めていたのかもしれませんが。

守山城跡 / 能越自動車道高岡北ICから20分



## 1 高岡城跡 (高岡古城公園)【県指定史跡】

慶長14年(1609)に前田利長公が築城した城で、設計は高山右近と伝えられます。利長公の死去後、元和元年(1615)の一国一城令によって廃城となりました。

三代藩主利常公は城内の施設は撤去したものの、藩の米蔵や火薬庫を置いて曲輪や水堀など城の基本機能を残しました。明治維新直後の民間払い下げの危機も、服部嘉十郎ら高岡町民たちの運動によって都市公園(古城公園)となることで切り抜けました。

築城当時の縄張りが良好に残されており、近世初頭の城郭を知る上で貴重な遺構です。

高岡市立博物館 / 無料 ☎0766-20-1572

① 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

② JR高岡駅から徒歩15分 ③ 能越自動車道高岡ICから10分



加賀藩二代藩主 前田利長公像



築城の名手・キリシタン大名 高山右近像

博物館で ぼくが案内 するよ!



### 3 木舟城跡【県指定史跡】

寿永3年(1184)、石黒太郎光弘築城と伝えられる平城です。天正13年(1585)に利家公末弟の前田秀継の居城となりましたが、同年の天正大地震により城主夫妻は落命し、翌年には廃城となりました。木舟町は木舟城下の人々が移り住んだ町といわれています。



木舟城跡／ 能越自動車道福岡ICから1分

### 4 武田家住宅【重要文化財】

武田信玄の弟の子孫と伝えられる旧家で、江戸初期から肝煎(村役人)を代々務めた豪農。勝興寺本堂の再建の際の余材で建てられたといわれ、豪壮な梁組など江戸時代後期の民家建築の特色がよく残されています。



武田家住宅／ 9:00～16:30 大人210円、中学生以下無料  
 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 0766-44-0724  
 JR雨晴駅から徒歩20分 能越自動車道高岡北ICから20分

### 5 有磯正八幡宮【登録有形文化財】

高岡の町立て(慶長年間)の際、有磯宮と横田正八幡宮の二社が合祀された神社で、本殿は明治16年(1883)に建てられました。境内を囲む石垣は前田家から奉納されたと伝えられ、高岡城のものと同じ刻印があります。



有磯正八幡宮／ こみち「有磯神社前」下車1分 能越自動車道高岡ICから10分

### 6 高岡関野神社

高岡の開祖、利長公を神霊として祀る唯一の神社で、高ノ宮と呼ばれ親しまれています。社殿の一部には江戸時代の建造物が保存継承されています。



高岡関野神社／ JR高岡駅から徒歩7分  
 能越自動車道高岡ICから10分



### ゆかりの地

源義経主従が奥州に下る途中に参詣した時の痕跡と伝承される、弁慶の拳骨跡や足跡が残ります。



弁慶の足跡



こぶし跡

### 7 氣多神社本殿【重要文化財】

天平年間の創建とされる県内でも来歴の古い神社です。永禄年間(16世紀中頃)に再建された本殿は、雄大で荘厳な風格の建物で、室町時代の特色を色濃く残しています。その後、利常公によって諸殿舎が再興されています。

氣多神社／  
 JR伏木駅から徒歩25分  
 能越自動車道高岡北ICから15分

神社境内には、  
大伴神社や  
万葉歌碑があるよ!



家持くん

#### 年表〈城下町の遺産群〉

- 1558-1570年(永禄年間) □ 謙信に焼かれた氣多神社の再建
- 1585年(天正13年) □ 利長公、守山城に入城
- 前田秀継が木舟城で震災
- 1609年(慶長14年)3月18日 □ 利長公隠居地の富山大火・富山城焼失
- 4月 □ 高山右近の縄張りで築城開始
- 9月13日 □ 高岡城に入城
- 1614年(慶長19年) □ 利長公死去
- 1615年(元和元年) □ 一國一城令により高岡城廃城
- 城跡は高岡町奉行所が管理
- 17世紀初頭 □ この頃、武田家が肝煎(村役人)を務める
- 1870年(明治3年) □ 金沢藩、高岡城跡の民間払い下げ開墾決定
- 1872年(明治5年) □ 七尾県による民間払い下げ
- 1873年(明治6年) □ 公園条例布達 □ 服部嘉十郎らにより高岡城跡の公園指定運動が起こる
- 高岡城跡、「高岡公園」に指定される
- 1875年(明治8年) □ 高岡城跡、県の史跡に指定
- 1965年(昭和40年)

## 8 山町筋

【重要伝統的建造物群保存地区】

### ■土蔵造りの町並み

利長公の造った商人町。明治33年(1900)の大火後、当時の防火建築物である土蔵造りにて再興しました。旧北陸街道に沿って軒を並べており、開町時の基本的な町割りを今に伝えています。

山町筋／JR高岡駅から徒歩10分  
 能越自動車道高岡ICから10分

たかおか みくまるまやまつり 5月1日  
**高岡御車山祭** (宵祭4月30日)  
 【重要有形・無形民俗文化財】

両方に指定されているのは全国に5件。利長公が大岡秀吉から拝領した御所車を、利長公が開町にあたり町民に与えたのが始まりとされます。華やかな桃山様式を帯びた高岡名工の技が結集されており、7基の御車山が町々を巡行する祭の華麗さは、圧巻です。



日本三大仏

## 15 高岡大仏 (銅造阿弥陀如来坐像) 【市指定文化財】

奈良・鎌倉に並ぶ日本三大仏。利長公が高岡に築城の折、この地に移されました。2度の焼失の後、不燃の大仏として甦りました。高岡銅器職人の技術の粋を凝らして铸造された、高岡の象徴であり、誇りとなっています。

**ポイント** 化粧直し(平成19年)が行われ、ますます美男になりました。

高岡大仏／志納無休 ☎0766-23-9156  
 JR高岡駅から徒歩10分 能越自動車道高岡ICから10分

## 16 金屋町

### ■千本格子の町並み

利長公が砺波郡西部金屋から7人の鋳物師を招き鋳物産業を興させたのがこの町の起源で、高岡鋳物発祥の地です。千本格子の町並みと銅片の敷き込まれた石畳が美しいたたずまいを見せます。

金屋町／加越能バス「金屋」下車すぐ  
 能越自動車道高岡ICから10分



## 17 旧南部铸造所

(キューボラ・煙突)  
 【登録有形文化財】  
 大正13年(1924)・築



## 9 菅野家住宅【重要文化財】

山町筋を代表する土蔵造りの町屋。主屋、土蔵とともに明治33年の大火直後の建設と伝えられ、伝統的で質の高い町家が多く残る高岡でも、大規模でもっとも質の高い建造物の1つです。

菅野家住宅／9:30~16:00 大人200円、中学生以下無料  
 火曜日、8/13~17、年末年始、歳冬期(1月~2月) ☎0766-22-3078

## 10 高岡市土蔵造りのまち資料館(旧室崎家住宅)【市指定文化財】



室崎家は繊維問屋を営んでいた商家で、現在は山町筋の町の形成から土蔵造りの成り立ちについて紹介する資料館となっています。

高岡市土蔵造りのまち資料館／9:00~16:30  
 大人200円、中学生以下無料 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 ☎0766-25-5223



## 13 佐野家住宅【登録有形文化財】



## 14 清都酒造場主屋【登録有形文化財】



## 11 筏井家住宅【県指定文化財】



## 12 井波屋仏壇店【登録有形文化財】



## 高岡市鋳物資料館

民家を改修した資料館で、金屋の町並みに溶け込んでいます。貴重な古文書や懐かしい鋳造道具などを通して、高岡鋳物の歴史をご覧ください。

9:00~16:30 大人210円、中学生以下無料  
 火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 ☎0766-28-6088

## 年表 <商工業都市の遺産群>

- 1609年(慶長14年) □ 城下に商人町を町割りする(山町筋)
- 利長公、町民に御車山を与える(山町)
- 1611年(慶長16年) □ 鋳物師7名の招聘(金屋町)
- 1615年(元和元年) □ 高岡城廃城、家臣団は金沢へ移る
- 町民は離散を始める
- 1620年(元和6年) □ 利常公、高岡町人の他所移住を禁止する
- 1751-1763年(宝暦年間) □ 銅器鋳物技術の導入
- 18世紀後半 □ 仏具・香炉等の生産
- 1828年(文政11年) □ 十返舎一九「金の草鞋」に高岡煙管登場
- 1900年(明治33年) □ 高岡大火(市街地の6割が焼失)



[山門より見る仏殿(国宝)]

金沢城、勝興寺、そして瑞龍寺仏殿でしか見られない鉛屋根の白の美しさ、天井の彫刻がポイント。総量47トンの屋根を支える美しく強化された構造が特徴です。

## 22 瑞龍寺【国宝3棟 重要文化財7棟】

加賀藩二代藩主前田利長公の菩提を弔うため、三代藩主利常公が、加賀の名工山上善右衛門嘉広の手により建立。利長公33回忌にあたる正保3年(1646)頃から寛文3年(1663)の50回忌にかけて七堂伽藍が整備され、総門・山門・仏殿・法堂を伽藍中心線上に配した禅宗寺院の典型的な姿になりました。



### 山門【国宝】

伽藍瑞龍の中核を担う建物で純粋な禅宗様式の二重門です。

**ポイント** 埋木 節や傷、狂いを見越した埋木は、木目まで合わせた神業!



### はっとう 法堂【国宝】

利長公の廟として加賀藩によって特別に保護されました。江戸時代には大方丈と呼ばれ、現在も利長公の位牌が安置されています。

**ポイント** 天井 天井の百花図は狩野安信によるもので、見どころです。

## 23 瑞龍寺の石廟

【県指定史跡】

石で作られた切妻型の越前式石廟で内部に宝篋印塔が納められています。5棟の石廟は、前田利長公・利家公、織田信長公、信長夫人、織田信忠公を祀るものです。



## 24 瑞龍寺境内地

【市指定史跡】

瑞龍寺 / 9:00~16:30(12月10日~1月31日は9:00~16:00) 大人500円、中学生200円、小学生100円 無休 ☎0766-25-4479  
JR高岡駅南口から徒歩10分 能越自動車道高岡ICから10分



## 25 八丁道

瑞龍寺と前田利長墓所をつなぐ約八町(870m)の参道です。往時は石灯籠が並ぶ道でした。現在は松の植樹や石灯籠などの整備がされています。現在も当時の石灯籠34本が残っています。



大名個人の墓としては日本一

御廟

参道

## 26 前田利長墓所【県指定史跡】

三代藩主前田利常公が兄利長公の遺徳を称えるために、33回忌にあたる正保3年(1646)に造営されました。墓所内外の石灯籠と共に荘厳な雰囲気をも今に伝えています。

■9月13日の利長公顕彰祭には、御廟(墓所内部)が公開されます。

**ポイント** 墓前に敷いてある「袈裟状の石畳」 大名だけに使用を許された、加賀の戸室石です。

**ポイント** 台座を飾る130枚の「蓮の浮き彫り」 下絵は、狩野探幽の手によるものとされています。



前田利長墓所 / JR高岡駅南口から徒歩14分 能越自動車道高岡ICから10分



京都西本願寺阿彌陀堂を模した本堂

## 18 勝興寺【重要文化財12棟】

蓮如上人が営んだ土山御坊(現・南砺市)を前身としており、一向一揆の拠点として戦国時代の越中において大きな役割を果たしました。

天正12年(1584)に現在の地に移り、翌年、越中3郡を領有した前田利長公によって寺領を安堵され手厚い保護を受けました。真宗寺院の伽藍を築くものとして重要文化財に指定されています。現在、本坊等11棟の修理を行っています。



内観



講堂

開館時間 9:00~16:00 高校生以上300円(工事修復協力金) 無休  
 ☎0766-44-0037 交JR伏木駅から徒歩4分 能越自動車道高岡北Cから15分  
 伏木地区観光のお問い合わせは 伏木観光推進センター/☎0766-44-1199

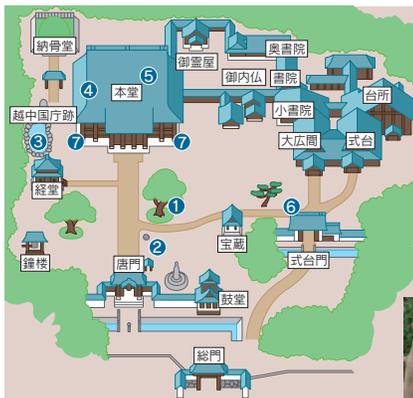


20 五福町神明社本殿



21 大手町神明社拜殿

利長公の御廟守として建築された鎮守堂の本殿と拜殿。



## ポイント 勝興寺に伝わる七不思議

- 1 実ならずの銀杏(本堂前)
- 2 天から降った石(本堂前)
- 3 水の洒れない池(本堂南側)
- 4 魔除の柱(本堂内南側の奥)
- 5 雲龍の硯(宝物収蔵庫)
- 6 三葉の松(本堂北側)
- 7 屋根を支える猿(本堂屋根下の四ツ角)



越中国庁跡

境内には3首の万葉歌碑があります。

## 19 勝興寺境内地

越中の国庁があった場所と伝えられています。周囲を囲む土塁や堀は中世の古国府城の遺構で、唐門前の堀などにその姿をとどめています。



## 高岡市伏木北前船資料館 (旧秋元家住宅)【市指定文化財】

市内で唯一望楼が残されている廻船問屋の町家です。北前船の通商で栄えた伏木と周辺の村々の歴史や全国各地の引札などを紹介しています。

☎9:00~16:00 大人210円、中学生以下無料 休年末年始  
 ☎0766-44-3999 交JR伏木駅から徒歩10分 能越自動車道高岡北Cから15分

## 年表〈宗教関係の遺産群〉

1584年(天正12年)	勝興寺が伏木古国府の地に移る
1585年(天正13年)	利長公が勝興寺の寺領安堵
1609年(慶長14年)	利長公、高岡城に入城
1614年(慶長19年)	利長公死去
1615年(元和元年)	一国一城令により高岡城廃城
1646年(正保3年)	前田利長公墓所の造営(八丁道)
1663年(寛文3年)頃	瑞龍寺伽藍が完成
1795年(寛政7年)	勝興寺本堂の竣工
1985-1996年(昭和60-平成8年)	瑞龍寺大修理
1997年(平成9年)	瑞龍寺の3棟が国宝に指定
1998-2004年(平成10-16年)	勝興寺第Ⅰ期修理(本堂)
2005-2018年(平成17-30年)予定	勝興寺第Ⅱ期修理(本坊等)



- ### バスのご案内
- コミュニティバスこまち オレンジルート
  - コミュニティバスこまち ブルールート
  - バス[1番のりば] 市民病院行
  - バス[3番のりば] 佐賀野方面ほか
  - バス[4番のりば] 古府循環(西・東)
  - バス[5番のりば] イオンモール高岡行
  - 交差点
  - P 駐車場



### 観光ボランティアについて

- 市内各地域の観光施設・史跡・景勝地などをご案内いたします。団体・グループ旅行や個人旅行の案内役にご利用ください。
- 利用日の一週間前までにお申し込みください。
  - 交通費としてガイド1人1,000円いただきます。
  - 利用時間は原則午前9時～午後4時までです。
- 飲食店・宿泊先などの情報もこちらまで!

[お申し込み・詳細は]  
高岡市観光協会  
TEL.0766-20-1547  
<http://www.takaoka.or.jp>

